

その後、相互の共通点や相違点、判断基準を明確にしながらい意見交流を進め、相互の理解を踏まえた上で、**合意的な**意思決定をするよう教師が働きかける（段階Ⅱ）。

ただし、あくまでも確かな「事実に関する認識」があった上ではじめてこの授業モデルの意味があるということに留意する必要がある。ただ単に判断を迫る授業を仕組みば、価値に関する認識を形成することができるというわけでない（※判断基準の明確化までをねらいとする授業もあると想定している）。

地理的分野・歴史的分野では、このモデルを応用した「事実に関する認識を獲得する授業」が実践の提案、公民的分野では、このモデルに留まらない実践の提案ができるようにしていきたい。以前、取り入れていた「留保条件」は、公民的分野では有効な手立てであると考え、モデル図には含めていないが、公民的分野の実践には取り入れていくことも念頭に入りたい（詳細は、公民的分野専門委員長の提案 参照）。

二つの授業モデルを示したが、これらに共通している場面がある。それは「認識を深める場」である。授業前段〈段階Ⅰ〉で獲得したり、形成したりした認識を広げたり、深めたりするために授業の後段〈段階Ⅱ〉で行う活動の場のことである。この場で、他の生徒との共通点や相違点を踏まえ、既習事項へ立ち戻ったり、他の生徒の考えを尊重したりして、自らの認識を広げたり深めたりしていく。

(3) 本年度の研究の方向

今年度の授業研究委員会の方向は以下の4点である。

1 新学習指導要領と中社研の理論の関連性を普及し、理論と実践をつなぐ

○地理的分野、歴史的分野の重点

- ・ 事実に関する認識を獲得する授業モデルの定着
- ・ 事実に関する認識を獲得する授業と価値に関する認識を形成する授業の接続を意図した授業の提案
- ・ 認識を深める場の手立ての在り方の検討（深めの問い、深めの資料+α）

○公民的分野の重点

- ・ 価値に関する認識を形成する授業モデルの定着・発展
- ・ 価値に関する認識を形成する授業モデルの普及
- ・ 認識を深める場の手立ての在り方の検討（**留保条件などの手立てを考えていくことも効果的**）

2 年間指導計画の修正や「岐阜県版」資料集等の改訂作成

○年間指導計画の**加筆・修正**

- ・ 昨年度末の配布した年間指導計画の3分野において、教科書を活用して、「事実に関する認識を獲得する授業」と「価値に関する認識を形成する授業モデル」を整理・修正、**具体的実践の実施**

○資料集改訂委員会による具体的な「岐阜県版」資料集等の改訂作業

- ・ 新学習指導要領の趣旨を活かした各分野のコンセプトの整理・検討
- ・ 岐中社の研究内容に即した具体的な改訂作業

3 令和5年度（今年度）西濃地区大会に向けての活動（3/3）

○西濃地区における運営・研究実践支援

- ・ 運営組織については調整済
- ・ 市・郡・町での指導案の検討、事前授業による分析・検討（内容面、方法面）
- ・ 県の研究理論を実践（西濃地区で新しく研究理論は出さない）

4 社会科教師としての教員研修を充実させる

○教員研修の場としての岐中社を目指す

- ・ 教育観、教師観を磨くとともに、社会科教育の在り方を共に考える場
- ・ 研究機関等との積極的な交流（全中社名古屋大会、大学研究者、社会科系教育学会、小社研）

3 おわりに

岐中社としてもこれまでの歩みを大切にしつつ、社会の変化や教育への要請を踏まえながら、新学習指導要領と理論の照らし合わせや実践を行ってきた。それが、「事実に関する認識を獲得する授業」と、「価値に関する認識を形成する授業」の定着・発展である。予測が困難な時代の中で、主体的に社会の形成に参加することのできる生徒の育成につながる実践している授業研究を目指していきたい。

岐阜県中学校社会科研究会が目指す授業

—主体的に社会の形成に参画する力を育てる社会科学習—

学習指導要領でも構想（選択・判断）というキーワードが出されています。これからの時代は、変化の激しい予測困難な時代と言われています。だからこそ、コロナウイルス感染症対策のように定まった結論のない問題（経済重視？医療重視？）について考えていくことも、これからの時代を生きる生徒にとって必要な学習になります。

①と②の授業で主体的に社会の形成に参画する力を育てようとしているのは分かったけど、どうして今、二つのアプローチで社会科学習を計画していく必要があるの？



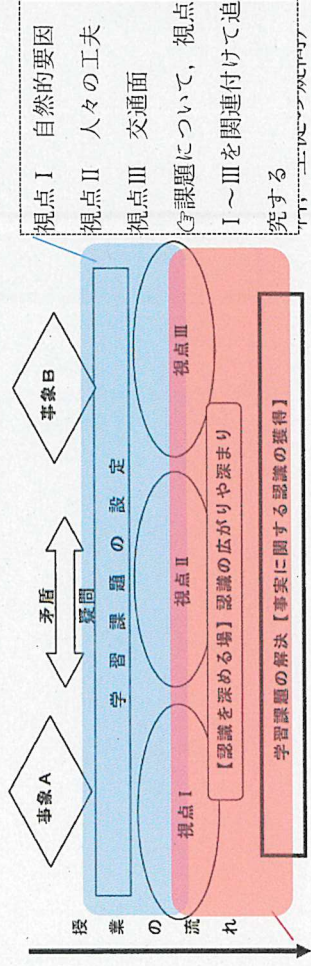
①事実に関する認識を獲得する授業

- この授業は、結論は定まったものになる
- 地理的分野、歴史的分野の9割、公民的分野の7～8割
- ②割合からも、分かるように中学校社会科の授業においては、基本の授業となる

- [課題例]
- なぜ、関市にあるK社の刃物産業は、100年以上も続いているのだろうか？
 - 承久の乱で、多くの御家人が、朝廷ではなく幕府の味方をしたのはなぜか？

- [実践のPoint]
- 資料を提示し、生徒から「なぜ？」といった疑問から課題設定をする
 - 設定した課題について、予想から、課題を解決するための視点が設定されるとよい
 - 認識を深める場では、生徒の思考が深まるような手立て（深めの問い、深めの資料、生徒の疑問）を用いることができると深い学びとなる

[授業モデルと実践例のリンク]
 (課題例) 長野県川上村でレタスの栽培量が日本一なのはなぜか？



を用いて、認識を広げたり深めたりして課題解決を図る

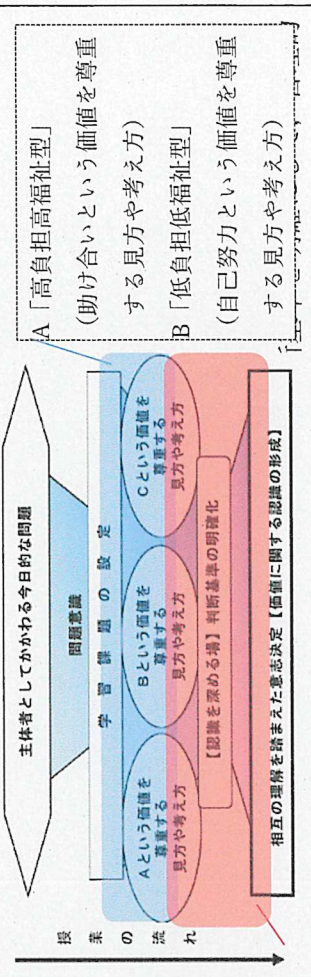
②価値に関する認識を形成する授業

- この授業については、結論が未だ定まっていないものになる
- ③現在～未来の問題を取り上げて話し合うことが基本である
- ④事実に関する認識を獲得した上での授業となる
- 地理的分野、歴史的分野の1割、公民的分野の2～3割

- [課題例]
- 少子高齢化が進む中で、日本の社会保障はどうあるべきだろうか？
 - 新型コロナウイルス感染症対策において経済、医療どちらを優先すべきか？

- [実践のPoint]
- 今日的な現代社会の問題から、課題設定をする
 - 課題設定から、異なる見方や考え方を提示したり、考えさせたりする。その中で、よりよい社会のあり方や自己の生き方などについて選択・判断していく。
 - 認識を深める場では、それぞれの主張を理解したり、論点を明確にしたりする
 - 事実に関する認識や、相互の理解を踏まえたいうえで、合理的に構想（選択・判断）し、最終的な意志決定をさせる（⑤価値に関する認識の形成）

[授業モデルと実践例のリンク]
 (課題例) 少子高齢化が進む中で、日本の社会保障はどうあるべきだろうか？



に意志決定する

主体的に社会の形成に参画する力を育てる社会科学習

地理的分野 専門委員長 岐阜市立藍川中学校 勝野 陽介

1 はじめに

岐中社が全国大会岐阜大会以前から「主体的に社会の形成に参画する力」を育ててきたことは、学習指導要領の「学びに向かう人間性等の育成」を先取りしていたと考えている。

また、「人間の生き方を問い続ける社会科学習」を主題にした今年の全国中学校社会科教育研究大会名古屋大会に参加して、岐中社が実践してきた「価値に関する認識を形成する授業」が、これまで以上に全国的に注目されていることを実感できた。岐中社のこれまでの取組に自信と誇りをもって、今年度の実践につなげていきたい。

2 研究内容

「価値に関する認識を形成する授業」にチャレンジしていきたいが、同時に「価値に関する認識を形成する授業」が注目され、小社研で「選択・判断を迫る授業」の実践がされる中、中学校で確かな事実認識の獲得がないまま、選択・判断を迫ったり、合意形成をしようとしたりする授業が行われていることも危惧している。そのことと、地理的分野では、全授業の9割が「事実に関する認識を獲得する授業」であることを踏まえ、研究内容を以下の3つとしたい。

研究内容1「事実に関する認識を獲得する授業」

教師が積極的な教材研究を行い、魅力ある題材の授業づくりは、社会科の教師にとってとても大切なことである。地理的分野においては、現地に赴く、取材をすることが理想である。そのような題材を用いて、「事実に関する認識を獲得する授業」を「授業モデル」に基づき実践していく。その際、3観点となった評価の在り方を明らかにしながら、一昨年、昨年に作成した年間指導計画をビルドアップしていきたい。

研究内容2「事実に関する認識を獲得する授業」だが、「価値に関する認識形成する授業」につながる授業

選択・判断を迫る学習(授業ではなく学習)は「事実に関する認識を獲得する授業」の授業モデル【段階Ⅱ】で実践できる。これは、「価値に関する認識を形成する授業」の実践に確実につながる。安易に選択・判断を迫る課題設定をするのではなく、確かな事実認識を獲得することをねらいとしながら、教師の問いかけやコーディネート、レーダーチャートの活用などで、選択・判断もしていく。これを「事実に関する認識を獲得する授業」だが、「価値に関する認識を形成する授業」につながる授業とし、積極的に実践していきたい。

研究内容3「価値に関する認識を形成する授業」

「価値に関する認識を形成する授業」については、地理的な見方・考え方で「今日の問題であるか」、「当事者意識をもてるか」を重視すると「南アメリカ州(開発と環境)」「地域の在り方」の単元で実践できる。この単元を中心に「価値に関する認識を形成する授業」の授業モデル②に基づき、留保条件を用いたり、合意形成したりすることに挑みたい。その際、トゥールミン図式の学習プリントの活用などで思考の可視化を図ったり、判断基準の明確化や異なる判断基準に気付きにつなげたりしたい。また、評価規準を明確化していきたい。特に、主体的に学習に取り組む態度の在り方に着目したい。

3 おわりに

昨年度、若手の授業研究委員の先生が、自分の教材研究に自信をもち、生徒と共に笑顔あふれる授業をしたことが印象的であった。そのような「事実に関する認識を獲得する授業」をベースに、『事実に関する認識を獲得する授業』だが、『価値に関する認識を形成する授業』につながる授業を積極的に実践することで、「価値に関する認識を形成する授業」について確かな理論をもてるようにしていきたい。

主体的に社会の形成に参画する力を育てる社会科学習

歴史的分野長 本巣市立根尾学園 稲垣 直斗

1 はじめに

昨年度は、特に【事実に関する認識を獲得する授業】と【価値に関する認識を形成する授業】の接続の授業に重点を置いて、実践を行った。成果と課題は、以下の通りである。

【事実に関する認識を獲得する授業】と【価値に関する認識を形成する授業】の接続の授業

- 歴史上の人物の判断を取り上げ、当時の社会の状況や社会的課題について、自分の判断基準をもとに、価値を分類・整理し、考察することができた。
- 歴史的な見方・考え方を働かせて追究し、時代の推移、比較、関連、相互の関連や現在のつながりなどに着目し、多面的、多角的に考察できるようにする。
- 自分と仲間の判断の共通点や相違点、判断基準を明確にし、自分の判断基準がどのように再構成されたのかを気付けるようにする。

岐中社がこれまで提案してきたように【価値に関する認識を形成する授業】は、歴史的分野では1割にも満たないかもしれない。歴史的分野の学習指導要領においても「現代の日本と世界」にだけ「構想」が記載されている。そのため、歴史的分野の最終段階で歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、多面的・多角的に考察、構想し、表現するためには、【事実に関する認識を獲得する授業】と【価値に関する認識を形成する授業】の接続の授業を積み重ねて、「構想（選択・判断）する力」を鍛えていく必要がある。

よって、今年度は先人が苦難を乗り越える場面など、時代の転換期を取り上げ、時代の転換期の前後の共通点や相違点を明確にして、その判断基準について分析・検討、評価させる学習を積み上げるようにする。

2 研究内容

(1)「事実に関する認識を獲得する授業」

各時代相を見いだすことができる指導計画の工夫

- …概念的知識をどう獲得させ、どのように時代の特色（時代相）を捉えるかを明らかにする。

認識を深めるための指導方法の工夫

- …歴史的な見方・考え方を働かせて、認識を深める発問及び資料を吟味する。

社会的事象や人物の願いなどを、資料に基づいて多面的・多角的に考察し、時期や推移などに着目し、時代ごとの特色（時代相）を深く認識することが大切である。よって、「いつ起こったか?」「どのように変わったか?」、「なぜ起こった(何のために行われた)か?」、「どのような変化があったのか?」など、歴史的な見方・考え方を働かせる問いを教師や生徒が意図的に使う手立てが挙げられる。

また、事象が生起した原因、結果や影響などに着目

し、その当時の社会状況を、多面的・多角的に考察することができるようにすることを一層重視し、人物の願いや努力（生き様）がにじみ出る授業の開発に努める。そうすることが【価値に関する認識を形成する授業】において、事実に関する認識を土台とし、歴史的な見方・考え方を働かせて、判断することにもつながる。

(2) 価値に関する認識を形成する授業

事実に関する認識に基づく多様な価値の明確化

- …多面的・多角的に考察しながら、当時の人々の業績や願い、実現のための行動の過程、選択肢などに対する判断基準を吟味・評価する。

価値に関する認識を形成するための話合いの組織化

- …相互の理解を踏まえたうえで、根拠や判断基準を比較・関連付けたり、構想（選択・判断）を行ったりしながら、意志決定を促す。

学習指導要領における「獲得する知識の概念化を促し、理解を一層深めたり…」の部分にあたると考える。「その政策を支持するか、指示しないか（その判断についてどう思うか）」「どちらの政策が有効だったか」「よりよい未来にするためにどうあるべきだったのか」などの課題（問い）が挙げられる。

こうした課題（問い）を提示することで、生徒たちは「なぜ先人はこのような判断をしたのか」という先人の願いや判断などを吟味・評価し、その裏にある価値を探ることができる。また、どのような価値を優先させたのかという観点で考えるため、生徒たちは自分なりの判断基準を明確にしなが意志決定をし、その後の時代の推移についても考察していくことができる。それが自分の将来の生き方、今後の社会の在り方につながっていく。この意味で、よりよい社会を築くために大切にすべき価値を認識、形成、合意を図るなど、公民的分野への接合ができる。

歴史と自分のつながりや、現在と未来の日本や世界の在り方について考察、構想（選択・判断）できるように、資料が豊富にある「近現代史」において、価値に関する認識を形成する授業を実践する。そうすることで、自分事として課題を捉えながら、多面的・多角的に考察し、先人たちの判断について、吟味・評価しやすいのではないかと考える。そして、ここで働かせた見方・考え方が、地理的分野や公民的分野において、構想（選択・判断）する際の見方・考え方につながるようにする。時には、折り合いをつけながら交流して分析的検討を行うことで、個々の偏見に満ちた判断に陥ることなく合理的なものになるよう留意する。

3 おわりに

歴史から何を学び、歴史学習を通して、どのような社会をつくっていくのか。「歴史を学ぶ意味」を生徒と共に考えたい。そして、生徒が歴史を自分事として捉え、よりよい社会の実現に向けて、主体的に考えることができるような授業実践を進めていきたい。

主体的に社会の形成に参画する力を育てる社会科学習

公民的分野専門委員長 岐阜市立岐阜西中学校 前島 久恵

1 はじめに

昨年度まで、【価値に関する認識を形成する授業】において、次の内容を重点として実践研究を進めた。成果と課題は以下の通りである。

「留保条件」について

留保条件…折り合いをつけながら自分なりの最適解を導き出すための条件

□ Aor Bを判断するのではなく、条件を考えながら折り合いをつける学習活動を日常的に取り入れることにより、授業終末でなくても「留保条件」を活用しながら、結論を考えている生徒の姿を生み出すことができた。

■ 時間軸（現在，未来）を固定するかどうかにより議論の内容や結論が変わってくるのが分かった。そのため、時間軸の設定をどこまで行うのかは検討していく必要がある。

■ 折り合いをつけることができる手立てとしては有効であるが、悪い意味でいうと妥協の提案となってしまうとも言える。「留保条件」は手立ての一つと考え、県内に広めながら、その他の手立てはないのか模索していく必要もある。

「事実の分析的検討」について

□ 生徒の発言を「事実の分析的検討」を踏まえながら聞くと、生徒は無意識かもしれないが、「類推」、「未来予測」、「比較」、「統合」の考え方を活用していた。それを、教師が意図的に取り上げたり、価値付けたりすることで、合理的な意思決定につながっていき、話し合いの質が高まった。

□ 授業終末に「互いの意見を尊重し、どの立場からも納得できるようにするには、どのような提案を考えていくとよいか？」という教師の手立てが「事実の分析的検討」の統合につながり、最終的な結論を導き出す手立てとなった。

「合意形成の授業」について

□ 留保条件の設定により、個人内の合理的な意思決定を図ることができた。

■ 一方、集団での合意形成までには至らなかった。集団での合意形成の授業が中学校段階で可能なか実践を行い、検証をする必要がある。

（まずは、運営委員を中心に実践）

2 研究内容

研究推進委員長の本年度の方向にもあるように、公民的分野では、【事実に関する認識を獲得する授業】を基礎としながら、【価値に関する認識を形成する授業】に関して、「価値に関する認識を形成する授業モデルの定着・発展・普及」、「認識を深める場の手立ての在り方の検討（留保条件等）」に着目して研究を進めていく。

公民的分野での【価値に関する認識を形成する授業】における重点は以下の通りである。

【価値に関する認識を形成する授業】

○ 授業モデルの定着・発展・普及

- ・ 価値に関する認識の授業を教科書から考える
- ・ 評価の充実

（ねらいの明確化とルーブリック評価等の活用）

○ 認識を深める場の手立ての在り方

- ・ 「留保条件の設定」による議論の成立（価値に関する話し合い）
- ・ 合理的な意思決定をさせるための「事実の分析的検討」

3 おわりに

変化が大きく、予測もつかない時代の中で、生徒たちは、今後、答えのない問いに直面することが多いと予想される。そんな時代の中で、価値に関する認識を形成する授業の重要性がより一層高まっている。価値に関する認識を形成する授業は、公民的分野で2～3割程度を目安としており、他分野よりも比重が高い。こうしたことから、確かな事実に関する認識を獲得した上で価値に関する認識の授業を行うことを大前提として、価値に関する認識を形成する授業に関する理論の具体的な授業への落とし込むことに比重を置き、実践を積み重ねていきたい。

また、価値に関する認識を形成する授業を、教科書を活用して実践していきたい。そのことが、価値に関する認識を形成する授業実践が岐阜県内でさらに定着・普及することにつながり、主体的に社会の形成に参画することのできる生徒のさらなる育成につながると考えている。